

ゼンショーサポーターズクラブ[ZSC]
会員募集中!!

ZSC(ゼンショーサポーターズクラブ)とは

「ZSC」は、株主の皆様とゼンショーをつなぐ架け橋です。
ゼンショーからは、内容を一新し、グレードアップした情報紙
「ゼンショーヴィジョン」や、ゼンショーグループの旬な
メニューを特別割引価格でお試しいただける「特別
お試し券」などをお送りします。



ZSCキャラクター「ゼンショーくん」

ZSC会員特典

- ① 「会員情報紙」の送付
- ② グループ店舗で使える
「特別お試し券」(割引券)の送付
- ③ ZSCオリジナル商品の特別販売(通販)

- ① 情報紙
(年3回送付予定)
- ② 特別お試し券
(約5,000円分の割引券を年6回送付予定)
- ③ ZSCオリジナル商品の販売
(年2回販売予定)



入会をご希望の方は...

同封の「サポーターズクラブ入会案内ご請求
ハガキ」をご返送ください。

初回特典は5月上旬お届け予定です。

300株以上保有の株主様につきましては、
優待券でのご入会も可能となっております。
詳しくは同封の「株主様お食事ご
優待券のご案内」をご確認ください。

会費
入会金
500円
+
年会費
1,000円

(入会は任意です)

株主通信



「ワールド・ブランディング・アワーズ」受賞トロフィー

目次

| | |
|---------------|----|
| トップメッセージ | 2 |
| 財務ハイライト | 4 |
| カテゴリー別レビュー | 9 |
| インタビュールーム Q&A | 11 |
| 株主優待制度 | 13 |

「すき家」が 「ブランド・オブ・ザ・イヤー」を受賞



受賞トロフィーと興津龍太郎社長

9月20日、イギリスの首都ロンドンにあるケンジントン宮殿で、「2016年ワールド・ブランディング・アワード」の表彰式が開催されました。今年で3回目となるこの表彰のレストランカテゴリーで「すき家」は栄えある「ブランド・オブ・ザ・イヤー」を受賞。株式会社すき家本部の興津龍太郎代表取締役社長が授賞式に出席し、トロフィーを受け取りました。この賞は世界の優れたブランドに贈られるもので、日本の外食ブランドとしては初めての受賞になります。「すき家」は創業以来一貫して、お客様に安全でおいしい食を、素早くお手軽な価格で提供させていただくことをモットーに歩み続けてまいりました。

今回の受賞を励みに皆様にいっそう愛される店づくりに邁進致します。



ケンジントン宮殿

株主のみなさまへ

株式会社ゼンショーホールディングス
代表取締役会長兼社長兼CEO

小川 賢太郎



株主の皆様には、平素より格別のお引き立てを賜り、心より厚く御礼申し上げます。

2017年3月期第2四半期連結累計期間(2016年4月1日から2016年9月30日)におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善などを背景として、緩やかな景気回復基調で推移いたしました。一方でアジア新興国や欧州など世界経済の下振れリスクの高まり等により、先行き不透明な状況が続きました。

外食産業におきましては、労働需給バランスの悪化などにより、引き続き厳しい経営環境となっております。

このような状況の下、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高2,686億47百万円(前年同期比2.0%増)、営業利益106億54百万円(同69.0%増)、経常利益100億7百万円(同70.9%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益49億17百万円(同98.2%増)となりました。収益面につきましては、牛肉価格を中心とした食材コストやエネルギーコストの低減等により、前年対比増益となりました。

「すき家」では、お客様の多様なニーズにお応えできるよう、「すき家de健康」をテーマに栄養バランスにこだわった「まぐろなめろう丼」などを導入し、商品力の強化に取り組んでまいりました。

また、回転寿司の「はま寿司」では、積極的な出店による業容の拡大を図るとともに、商品品質の向上、店舗サービスの強化等に努めてまいりました。

2017年3月期の通期業績見通しにつきましては、売上高5,588億61百万円(前年同期比6.3%増)、営業利益177億10百万円(同46.2%増)、経常利益167億72百万円(同47.4%増)、親会社株主に帰属する当期純利益70億29百万円(同74.6%増)を据え置いております。尚、配当につきましては、今期中間配当を当初予想の1株当たり8円から9円へ増配とさせていただきます。さらに、期末配当につきましても、当初予想の8円から9円へ修正を行い、年間では18円を予定しております。

今後も、世界中の全ての人々に安全でおいしい食を手軽な価格で提供する企業として、従業員が働きやすい職場環境づくりを推進し、各業態の出店及びブランド力の強化に取り組んでまいります。

株主様におかれましては、ともにフード業世界一を目指すパートナーとして、今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

連結損益計算書(要旨)

(億円未満切捨て)

| | 2016年3月期 第2四半期 | 2017年3月期 第2四半期 | 増減 |
|----------------------|-------------------|-------------------|-----|
| 1 売上高 | 2,634 | 2,686 | +51 |
| 売上原価 | 1,153 | 1,132 | △21 |
| 販売費及び一般管理費 | 1,417 | 1,447 | +29 |
| 2 営業利益 | 63 | 106 | +43 |
| 経常利益 | 58 | 100 | +41 |
| 親会社株主に帰属する 四半期純利益 | 24 | 49 | +24 |

POINT
1

新規出店などにより増収

2017年3月期第2四半期の売上高は、「はま寿司」や海外における「すき家」の新規出店による業容拡大などにより、51億円増収の2,686億円(前年同期比2.0%増)となりました。

売上高

(億円未満切捨て)



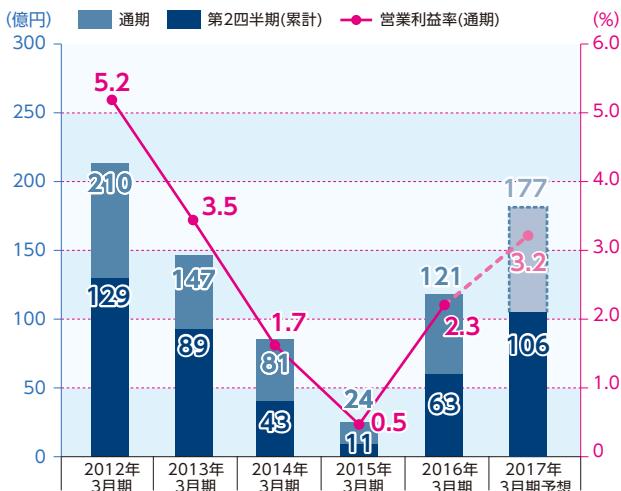
POINT
2

原材料価格の落ち着き、エネルギーコスト等の
コストコントロールで増益

営業利益は、新規に出店した店舗が利益を生んだことに加え、牛肉をはじめとした原材料価格が落ち着いたことや、原油価格下落の影響を受けたエネルギーコストの低減、各業態でコストコントロールを実施したことなどから、43億円増益の106億円(前年同期比69.0%増)となりました。

営業利益

(億円未満切捨て)



Closeup

積極出店で成長を継続
～成長し続ける理由～

増収の大きな要因となっている、国内外における新規出店。この2017年3月期第2四半期には、合計で65店舗の新規出店を行いました(内訳は国内31店舗、海外34店舗)。これは、国内の各ブランドの競争力を高めながら強いブランドを海外展開することで、「世界から飢餓と貧困を撲滅する」という当社のビジョンを少しでも早く実現することを目指しているものです。これからも、グローバルな展開を積極的に行い、成長を継続していきたいと考えています。

連結貸借対照表(要旨)

(億円未満切捨て)

| | 2016年3月期末 | 2017年3月期 第2四半期末 | 増減 |
|-------------|--------------|--------------------|-------------|
| 資産の部 | | | |
| 流動資産 | 646 | 580 | △66 |
| 現金及び預金 | 209 | 166 | △42 |
| その他 | 437 | 413 | △24 |
| 固定資産 | 2,135 | 2,067 | △68 |
| 有形固定資産 | 1,274 | 1,248 | △25 |
| 無形固定資産 | 161 | 155 | △6 |
| 投資その他の資産 | 699 | 663 | △36 |
| 資産合計 | 2,783 | 2,647 | △135 |

負債の部

3

| | | | |
|-------------|--------------|--------------|-------------|
| 有利子負債 | 1,398 | 1,243 | △154 |
| 短期借入金・CP | 38 | 8 | △30 |
| 長期借入金・社債 | 1,359 | 1,235 | △124 |
| その他の負債 | 634 | 638 | +3 |
| 負債合計 | 2,032 | 1,881 | △151 |

純資産の部

| | | | |
|----------------|--------------|--------------|-------------|
| 株主資本 | 634 | 656 | +21 |
| 資本金・資本剰余金等 | 477 | 457 | △20 |
| 利益剰余金 | 156 | 198 | +41 |
| その他の包括利益累計額合計 | △17 | △28 | △11 |
| 非支配株主持分 | 133 | 139 | +5 |
| 純資産合計 | 750 | 766 | +15 |
| 負債純資産合計 | 2,783 | 2,647 | △135 |

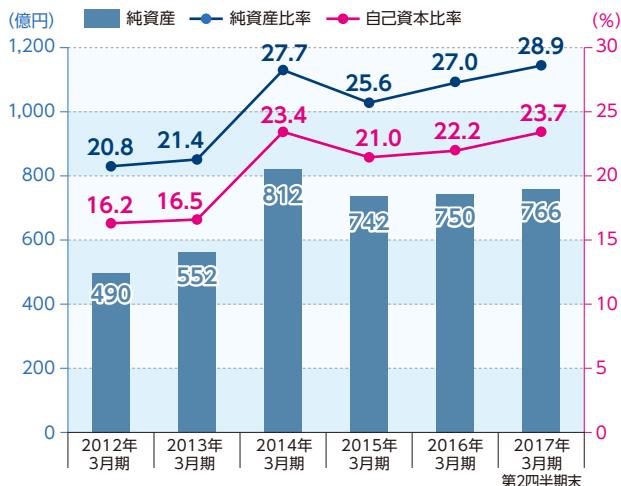
POINT
3

有利子負債の低減を促進

2017年3月期第2四半期の資産・負債の状況は、手元現預金を借入金の返済に充てるなど、積極的な財務体質の改善に努め、負債合計が減少しました。その結果、自己資本比率は23.7%(前期末比+1.5%pt)、純資産比率は28.9%(前期末比+1.9%pt)となりました。

自己資本及び純資産

(億円未満切捨て)



連結キャッシュ・フロー (要旨)

(億円未満切捨て)

| | 2016年3月期 第2四半期 | 2017年3月期 第2四半期 | 増減 |
|----------------------|-------------------|-------------------|-------------|
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 294 | 209 | △85 |
| 営業キャッシュ・フロー | 68 | 213 | +145 |
| 投資キャッシュ・フロー | △90 | △59 | +31 |
| 財務キャッシュ・フロー | △86 | △192 | △105 |
| その他 | 2 | △3 | △6 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 187 | 166 | △21 |
| フリー・キャッシュ・フロー | △22 | 153 | +176 |

POINT
4

フリー・キャッシュ・フローが増加

2017年3月期第2四半期のキャッシュ・フローについては、業績が堅調に推移したことによる四半期純利益の増加や未払消費税の増加等により、営業キャッシュ・フローが前年同期比+145億円の213億円となりました。

また、出店等による投資を行う一方、資産の有効活用等を行った結果、投資キャッシュ・フローは前年同期比+31億円の△59億円となりました。

以上の結果、営業キャッシュ・フローと投資キャッシュ・フローを合わせた額であるフリー・キャッシュ・フローは、前年同期比+176億円改善し、153億円となりました。

Closeup

「すき家」ベトナム1号店オープン

2016年7月1日、ベトナム、ホーチミン市に「すき家」ベトナム1号店となるイオンモール ビンタン店をオープンしました。この出店により、「すき家」の海外展開は8つの国と地域に広がりました。

ベトナムはインドシナ半島の東部に位置する国で、経済面では2015年に世界16位の成長率を達成し、今後も安定した成長が見込まれています。「すき家」が出店したイオンモールは、ホーチミンの市街地から車で約40分の立地にあり、周辺には医療施設、学校や住宅地が広がっていて、人口の増加と広い地域からの集客が期待されています。

ベトナムで提供している牛丼は、ベトナムのハノイ産コシヒカリ100%、米国産牛肉100%、さらに、玉ねぎは店舗でカットする等、鮮度が高くこだわりの詰まった商品です。価格は並盛で39,000ドン(約200円)と一般のベトナム人の平均的なランチ価格30,000ドン(約150円)より高めですが、ベトナムでは日本食は味がよく健康に配慮された高級料理というイメージがあるため、ボリュームがあるこだわりの牛丼は、手軽な日本食としてベトナムのお客様からご好評をいただいています。

また、日本食レストランのきめ細やかなサービスは、ベトナムのお客様にとって新鮮で大変喜ばれますので、現地クルーが日本と同じレベルの接客サービスができるよう、従業員教育には特に力を入れています。

継続して多くのお客様の笑顔と支持を集めていくことで、今後のベトナム出店の加速へつなげてまいります。



「すき家」イオンモール ビンタン店の様子

外食事業

1 牛丼カテゴリ

前年同期比 +5.1%

2017年3月期 第2四半期 売上高
980億78百万円



牛丼カテゴリの当第2四半期連結会計期間末の店舗数は、34店舗出店、12店舗退店した結果、2,639店舗となりました。(株)すき家本部が経営する「すき家」では、お客様の多様なニーズにお応えできるよう、「すき家de健康」をテーマとした「まぐろなめろう丼」、ケイジャンソースによりまるやかでスパイシーに仕上げた「アボカド牛丼」、すき家史上最も辛い「アラビアータ牛丼」、甘辛タレの豚肉を炭火で香ばしく焼き上げた「炭火豚丼」などを導入し、商品力の強化に取り組んでまいりました。

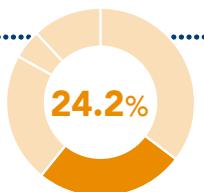
(株)なか卯が経営する「なか卯」では、新商品・季節限定商品の投入や既存商品のブラッシュアップによる商品力の強化と店舗販促の実施により、業績の向上に努めてまいりました。

以上の結果、牛丼カテゴリの当第2四半期連結累計期間の売上高は、980億78百万円(前年同期比5.1%増)となりました。

2 レストランカテゴリ

前年同期比 -3.0%

2017年3月期 第2四半期 売上高
650億91百万円



レストランカテゴリの当第2四半期連結会計期間末の店舗数は、11店舗出店、12店舗退店した結果、1,366店舗(FC79店舗を含む)となりました。

「ココス」、「ビッグボーイ」、「ジョリーパスタ」、「華屋与兵衛」をはじめとする主力業態を中心に、メニューのラインアップの拡充や旬の食材を活かした新商品の投入を行うとともに、店舗のサービス水準の向上に取り組み、業績の向上に努めてまいりました。

以上の結果、レストランカテゴリの当第2四半期連結累計期間の売上高は、650億91百万円(前年同期比3.0%減)となりました。

3 ファストフードカテゴリ

前年同期比 +5.6%

2017年3月期 第2四半期 売上高
616億57百万円



ファストフードカテゴリの当第2四半期連結会計期間末の店舗数は、18店舗出店、7店舗退店及び大和フーズ(株)の全株式譲渡による65店舗減等により、691店舗となりました。

(株)はま寿司が経営する回転寿司の「はま寿司」につきましては、積極的な出店による業容の拡大を図るとともに、商品品質の向上、店舗サービスの強化等に努めてまいりました。

以上の結果、ファストフードカテゴリの当第2四半期連結累計期間の売上高は、616億57百万円(前年同期比5.6%増)となりました。

4 その他カテゴリ

前年同期比 -1.5%

2017年3月期 第2四半期 売上高
135億80百万円



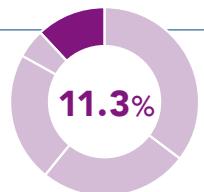
その他カテゴリの当第2四半期連結累計期間の売上高は、135億80百万円(前年同期比1.5%減)となりました。

当カテゴリの主な内訳は、冷凍ピッツア等販売の(株)トロナジャパン、グループの物流機能を担う(株)グローバルフレッシュサプライ、備品・ユニフォーム等を調達する(株)グローバルテーブルサプライ等であります。

小売事業

前年同期比 -2.3%

2017年3月期 第2四半期 売上高
302億39百万円



小売事業の当第2四半期連結累計期間の売上高は、302億39百万円(前年同期比2.3%減)、営業利益は2億96百万円(前年同期は営業損失1億45百万円)となりました。

当事業の内訳は、スーパーマーケット事業を展開する(株)マルヤ、(株)マルエイ、(株)尾張屋及び青果販売等の(株)ユナイテッドページズ等であります。

インタビュールーム **Q & A**

2016年10月に新しくグループ入りした株式会社フジタコーポレーションについてご質問にお答えします。

Q 株式会社フジタコーポレーションはどんな会社？

A 1978年設立。群馬県を中心に食品スーパーマーケットを地域密着で堅実に拡大し、現在 44 店舗を展開しております。フジタコーポレーションの強みとしては、地域の特性やお客様一人ひとりのニーズに応じた品揃え・店舗展開と自社工場での企画・製造した高付加価値の惣菜の提供が挙げられます。

| 店名 | 店舗写真 | 特徴 |
|--|---|--|
| フジmart  |  | 近隣のお客様の冷蔵庫代わりとしての利便性を追求した、地域に根付くスーパーマーケットです。 |
| アバンセ  |  | フジmartより品揃えを増やし、より充実したお客様の食生活を支えるお店です。 |
| マルシェ  |  | 輸入食品・自然食品なども取り揃え、よりこだわりの商品を求めるお客様にご来店いただいています。 |
| でりしゃす  |  | 作りたてのお惣菜・サラダ・お弁当をバイキングスタイルで提供しています。イートインスペースでも気軽に召し上がりがいただけます。 |

Q 株式取得の理由は？

A 当社グループは、2012年11月の株式会社マルヤのM&Aを皮切りに、外食事業で培ってきたマス・マーチャンダイジングシステム(※1)を基盤とする食材の調達力、商品開発力や店舗運営ノウハウ等を最大限活用し、食品小売事業の業容拡大に取り組んでまいりました。現在、関東圏を中心に食品スーパーマーケット及び青果販売店等を約100店舗展開しておりますが、本株式取得により、商品開発、食材調達、物流、店舗運営、店舗立地開発等の各分野において相乗効果が期待でき、当社グループの食品小売事業のさらなる競争力向上を実現できるものと判断いたしました。

※1 原材料の調達から製造・加工、物流、店舗での販売までを一貫して企画・設計、運営する、ゼンショーグループ独自の仕組み。

ゼンショーグループの小売事業店舗数

| マルヤ | マルエイ | ヤマグチ | 合計 |
|-------|------------|-------------|--------|
| 35 店舗 | 9 店舗 | 8 店舗 | 141 店舗 |
| 尾張屋 | ユナイテッドベジーズ | フジタコーポレーション | |
| 8 店舗 | 37 店舗 | 44 店舗 | |

(2016年10月18日現在)

Q 本件が今期の業績に与える影響は？

A 今期の業績予想に本件は折り込んでおりませんが、業績に与える影響は軽微であります。

Q 今後も引き続き小売事業のM&A案件に意欲的に取り組んでいくのか？

A M&Aの案件は常に複数件検討しております。食に関わるということ以外、事業領域としては特に限定しておらず、様々な選択肢があると考えています。案件ごとの特徴を踏まえ、双方にメリットがある案件であれば、取り組む価値はあるものと認識しています。

株主優待制度

当社では皆様の日頃のご厚情に感謝し、100株以上保有の株主の方に、当社グループでお使いいただける「株主様お食事ご優待券」をお届けしています。



| | |
|------------------|----------------------|
| 100株以上300株未満 | 1,000円分 (500円券×2枚) |
| 300株以上500株未満 | 3,000円分 (500円券×6枚) |
| 500株以上1,000株未満 | 6,000円分 (500円券×12枚) |
| 1,000株以上5,000株未満 | 12,000円分 (500円券×24枚) |
| 5,000株以上 | 30,000円分 (500円券×60枚) |

ご優待券をご利用いただけるお店



代替品について

300株以上保有の株主様は、代替品交換制度をご利用いただけます。



(代替品の一例)

定められた期限内に未使用で最新の株主優待券(切り離し無効)をご返送いただくと、3,000円1冊分で、ゼンショーグループのオリジナル商品と交換が可能です。

※詳細は株主優待券同封の「株主様お食事ご優待券のご案内」をご覧ください。

株式の状況 (2016年9月末現在)

| | | |
|--------------|--------------|----------|
| 発行可能株式総数 | 発行済株式の総数 | 株主数 |
| 432,000,000株 | 149,640,445株 | 153,698名 |

大株主 (上位10名)

| 株主名 | 持株数(千株) | 持株比率(%) |
|----------------------------|---------|---------|
| 株式会社 日本クリエイト | 50,567 | 34.11 |
| 小川 賢太郎 | 3,162 | 2.13 |
| 小川 一政 | 3,160 | 2.13 |
| 小川 洋平 | 3,160 | 2.13 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) | 2,706 | 1.83 |
| ゼンショーグループ社員持株会 | 2,678 | 1.81 |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 1,579 | 1.07 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口1) | 1,056 | 0.71 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5) | 1,048 | 0.71 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口6) | 1,046 | 0.71 |

(注)持株比率は自己株式(1,396,423株)を控除して計算しております。

株主メモ

| | |
|------------|---|
| 事業年度 | ： 毎年4月1日から翌年3月31日までの1年 |
| 配当金受領株主確定日 | ： 3月31日及び9月30日 |
| 定時株主総会 | ： 毎年6月開催 |
| 基準日 | ： 3月31日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して一定の日を定めます。 |
| 株主名簿管理人 | ： 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 |
| 郵便物送付先 | ： 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 |
| 電話照会先 | ： 0120-782-031 (フリーダイヤル) |
| 単元株式数 | ： 100株 |
| 公告方法 | ： 原則として当社ホームページにて行います。電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行います。 |

お近くのお店は「ゼンショーグループ店舗検索サイト」でご確認ください

パソコン、スマートフォンから

ゼンショーさがす

検索

携帯から右記QRコードを読み取ってください。

